

わたしを^{たば}束ねないで

しんかわかず え
新川和江

わたしを^{たば}束ねないで

あらせいとうの花のように

白い^{ねぎ}葱のように

^{たば}束ねないでください わたしは^{いなほ}稲穂

秋 大地が胸を^こ焦がす

^{みわた}見渡すかぎりの^{こんじき}金色の^{いなほ}稲穂

わたしを止めないで

^{ひょうほんぼこ}標本箱の^{こんちゆう}昆虫のように

高原からきた絵葉書のように

止めないでください わたしは^{はばたき}羽撃き

こやみなく空のひろさをかいさぐっている

目には見えないつばさの音

わたしを^つ注がないで

日常性に薄められた牛乳のように

ぬるい酒のように

^つ注がないでください わたしは海

夜 とほうもなく満ちてくる

苦い^{うしお}潮 ふちのない水

わたしを名付けないで

娘という名 妻という名

重々しい母という名でしつらえた^ざ座に

^{すわ}坐りきりにさせないでください わたしは風

りんごの木と

泉のありかを知っている風

わたしを区切らないで

、（コンマ）や、（ピリオド） いくつかの段落

そしておしまいに「さようなら」があったりする手紙のようには

こまめにけりをつけないでください わたしは終りのない文章

川と同じに

はてしなく流れていく ^{ひろ}拡がっていく 一行の詩